

開拓地から自動車の町へ

愛知県豊田市の伊保原^{いぼはら}開拓は、市の西側に位置し、標高 60～90m の台地にある。

戦中は名古屋海軍航空隊飛行場があった。

45 年 4～6 月にかけて、ここから神風特別攻撃隊《草薙隊》が沖縄戦に向け、4 隊 43 機 88 名が出撃し、56 名が散華した（草薙隊の名は熱田神宮の「草薙^{くさなぎのつるぎ}剣」に由来）。

46 年に、地元の二・三男や引揚者、疎開者など 49 名が開拓増進隊に応募し、愛知県追進^{ついでしん}農場で約 1 ヶ月の入植訓練を受けた。24 名が入植を認められ、49 年には新たに 34 名が入植した。

この地は飛行場だったため、滑走路などはコンクリート並みに硬くなっており、三本備中鍬を振り下ろしてもキズが付く程度だった。

さらに、土壌は酸性の粘土質で、当初は麦、サツマイモなどが栽培されたが収穫は少なかった。

48 年には伊保原開拓農協が設立され、土壌改良、水利事業などに着手し、次第に収量も増えていった。

59 年 9 月には伊勢湾台風により甚大な被害を受けたが、皆が一丸となって見事に災害からの復旧を果たした。

61 年に愛知用水が通水すると水田も多くなり、スイカは新墾地を中心に各戸で 20～30 a 栽培されるようになった。栽培技術の向上により「伊保原スイカ」として、一時は通常価格よりも 30% も高く評価された。

しかし、農業の機械化・省力化により余剰労力が発生し、これが農業外に向けられるようになり、兼業化が進んでいった。また、豊田市を中心とする自動車産業の発展で、基幹農業者も工場などに吸収され始め、都市化が進んでいくこととなった。

48 年に伊勢神宮からの分神を受けて伊保原神社が造営され、72 年に農協の解散にあたり開豊神社と改名された。この時、開拓碑と草薙隊之碑が建てられた。

伊保原（いぼはら） 23-201-2

①調査日 令和3年4月20日

②所在 豊田市浄水町原山

③地区の沿革 標高70～80米の飛行場跡地が解放され、昭和21年7月に81戸が入植した。

④設置年月日 昭和46年12月

⑤設置者 伊保原開拓農業協同組合

⑥碑文（表面） 開拓碑

愛知県知事 桑原 幹根 書

沿革 この一帯は元名古屋海軍航空隊の飛行場跡で戦後国の緊急食糧増産対策の一貫として開拓された土地である。昭和二十一年七月六●人の人達によって開拓事業が始められた。県迫進農場で開拓技術を修練し十七人が地区内に居住した。同年伊保原開拓農業協同組合が設立された。この土地は酸性が強く礫の多い粘土質土壌であった。鍬一丁にたよる開墾は遅々として捗らず収入のない歳月が続いて苦闘の連続で多くの人が離農した。屢々挫折感をおぼえ乍らも齒をくいしばって頑張った。組合は設立以来各種事業を完成し二十六年漸く電灯がひかれた。その後開拓地としての整備も徐々に行なわれて将来に希望を見出した。三十年代に入って営農が軌道に乗りかけた矢先に伊勢湾台風に見舞われ大きな被害を受けたが組合員が一丸となって見事に災害復旧をし組合の経済発展を成し遂げて現在に至っている。なお三十三年和田ヶ池三十六年愛知用水の完成により水田十七ヘクタールが開かれたが開拓者にとって素晴らしい光明であった。漸次入植し現在組合員数八一戸耕地面積一七〇ヘクタール余漸くして近代的農業地帯を完成し周辺地区と肩を並べるまでに成長した。これは偏に関係当局の暖かいご指導の賜であり心からの謝意を表しつつ茲に組合解散の記念を碑する

昭和四十六年十二月吉日建立

伊保原開拓農業協同組合

⑦碑文（裏面） 伊保原開拓入植者 昭和21年度から43年度入植者81名氏名

⑧現在の状況 開豊神社内で管理されている。